

鵬程万里
前途が明るく、
将来の見通しが
ある

JR東日本労働組合 ジャーナルエイト

2017年 8月 25日 NO32
発行者 清水 次昭
編集者 教宣部
〒192-0073
八王子市寺町40-4 TEL053-2625(JR)

定期大会

7月24日(月) 地本は、
第五回定期大会を八王子労

エルダー社員制度は、その制度の実施から既に9年となる。制度を希望する社員は全て再雇用される制度のはずである。制度利用に至る「再雇用までのスケジュール」も周知されている。制度に不備はあるが多くの社員に認知されていると考えられる。本来なら、4月から来年度の退職者向けに個人面談が始まっていたはずだ。しかし今年度に入っても何の音沙汰もなかった。会社は、いたずらに社員の不安感をかきたてているだけだ。現場長でさえ何も知らされていないのことに苛立ちを隠せない社員も多く見られた。

そんな状況下での6月中旬「エルダー社員の会社における業務範囲の拡大と労働条件の一部変更」が唐突に提案された。

現行制度においても、業種(職種)や業務内容等の詳細が不明確なためにミスマッチが発生している事を考えると、今大会での議論の中心になると考えられる。



政会館で開催した。

都議会議員選挙や本部大会など多方面に亘る活動が多くあり、根岸書記長の議案書作成も大変だったのではないかと思われた。

また、来賓の関係など選挙の後遺症も考えられ、その上に月曜日の開催ということで少し不安な気持ちになった。

清水委員長との挨拶(抜粋)は、九州北部地域を襲った豪雨による大規模な災害で被害に遭われた方々に対する見舞いの言葉から始まった。まず17春闘における組合員の積極的な行動に感謝しつつも、決して満足できる成果は得られなかったと総括した。18春闘は官製春闘などと揶揄される事なく、自身の取組みで勝利の闘いを創ろうと気を引き締めた。安全問題や組織の課題については、JR発足30年を

迎え労働組合として成長してきたが、少し老いた(組合員の高齢化)地本となつてしまった。しかし、培ってきた英知を結集し迷わず前進して行こうと締めた。自分自身を鼓舞しているように思えた。

また、都議選については多くを語らなかつた。質疑

質疑

発言者紹介(敬称略)

- ・ 蒔田 悟 (八王子運輸区分会)
- ・ 蔵河 彰 (立川駅連合分会)
- ・ 三井 秀夫 (拝島駅連合分会)
- ・ 富岡 和己 (甲府地区連合分会)
- ・ 牧野 治昭 (青梅駅連合分会)

(要旨抜粋)

JR本体に雇用された場合と同様の業務、例えば同じ行路に勤務するのか。

現職とエルダーの賃金格差は改善されるのか。

支社管内にいる国鉄採用者が業務拡大のエルダー社員として本体に雇用されることはあるのか。

JR本体雇用と本体以外の雇用者に勤務形態や賃金などを含めた労働条件に差は発生するのか。

これまでの制度との違いはあるのか。

賃金だけ捉えれば、同一労働・同一賃金との整合性はどうか。

女性社員の増加にトイレを含めた施設の整備が間に合っていない。

青梅駅付近では用地買収が進んでいるが、12両化について教えて。

営業エルダーの業務内容は、また転勤は発生するのか。

分会再編成についてですが、ブロック協議会が中心となって行うのか、執行部の考えを伺いたい。

新役員体制

執行委員長

清水 次昭

執行副委員長

佐藤 公夫

書記長

根岸 剛

執行委員

加藤 浩

千野 和彦

松岡 弘史

赤松 寛幸

田中 正英

高橋 勝宏

杉田 旭

会計監査

高橋 勝宏

杉田 旭

来賓紹介 (敬称略)

交運三多摩ブロック事務局長
長嶋 昭久衆議院議員
民進党東京22区総支部長
八王子市議会議員
町田市議会議員
貨物鉄産労八王子総鉄
中央本部書記長
東京地方本部書記長
横浜地方本部副委員長
交運共済東日本事業本部
地本友の会会長
地本八王子市民の会会長

大和田 實
及川 秘書
山花 郁夫
星野 直美
森本 せいや
志村 正二
生田 俊勝
郷 重雄
大森 靖二
松井 正義
天野 紘二
高橋 正春

ありがとうございました。